

<別紙> 情報提供様式

事例名																															
多忙感と超過勤務時間の減少に向けて																															
学校名																															
長浜市立高月中学校	連絡先 0749-85-2020																														
取組分野(複数選択可)																															
<input checked="" type="checkbox"/> 副校長・教頭の負担軽減に関する取組(学校経営骨太モデル事業 副校長・教頭マネジメント支援員の活用等)																															
直面していた課題(取組前の様子)																															
<p>2023(令和5)年度、教頭の超過勤務時間が、県市内で突出して多い状況が見られた。</p> <p>その大きな要因は、多様な課題を持つ生徒への対応(生徒指導、不登校対応、特別支援学級対応)に追われ、生徒在校時間帯に事務的業務をほとんど行うことができないことが挙げられた。</p> <p>特に、特別支援学級への対応では、授業中に複数の特別支援学級生徒が多様な行動をとるため、教頭がそのサポートに入ることが常態化している。</p> <p>また、県立学校の教頭から長浜市へ異動してきた一年目で、本市の業務内容に不慣れであったことも要因の一つである。</p>																															
在校等時間の縮減に向けた具体的取組内容	参考となる写真や資料を添付																														
<p>教頭マネジメント支援員の配置</p> <p>取組のポイント</p> <p>教頭業務の補助、施設管理の支援、保護者や外部来校者対応、自閉情緒学級生徒への対応などを担ってもらった。</p> <p>また、本市での管理職経験があるため、業務上のアドバイスをお願いした。</p>	<p>教頭超過勤務時間</p> <table border="1"> <caption>教頭超過勤務時間 (単位: 時間)</caption> <thead> <tr> <th>月</th> <th>2023年</th> <th>2024年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4月</td><td>180</td><td>150</td></tr> <tr><td>5月</td><td>110</td><td>90</td></tr> <tr><td>6月</td><td>140</td><td>85</td></tr> <tr><td>7月</td><td>135</td><td>105</td></tr> <tr><td>8月</td><td>125</td><td>65</td></tr> <tr><td>9月</td><td>130</td><td>85</td></tr> <tr><td>10月</td><td>140</td><td>95</td></tr> <tr><td>11月</td><td>165</td><td>100</td></tr> <tr><td>12月</td><td>125</td><td>115</td></tr> </tbody> </table>	月	2023年	2024年	4月	180	150	5月	110	90	6月	140	85	7月	135	105	8月	125	65	9月	130	85	10月	140	95	11月	165	100	12月	125	115
月		2023年	2024年																												
4月		180	150																												
5月	110	90																													
6月	140	85																													
7月	135	105																													
8月	125	65																													
9月	130	85																													
10月	140	95																													
11月	165	100																													
12月	125	115																													
取組の成果	<p>職員室で執務をしていると、突発的な対応が求められる場面がある。</p> <p>その際、報告文書作成途中であったり、報告メールの送受信途中であったりすると、あれもこれもこなしていかななくてはならないという多忙感が増大する。</p> <p>業務に対する補助、アドバイスがあると心理的な負担がずいぶん軽くなるのを感じる。</p> <p>校長・教頭経験のある教頭マネジメント支援員の配置は、新任教頭にとっては、確実に業務支援になりうるし、新任校長にとってもよき相談役となる。</p>																														
成果のポイント	<p>超過勤務の減少</p> <p>2023(令和5)年度に比べて、2024(令和6)年度は、月平均して41時間ほど超過勤務時間が減少した。</p> <p>執務時間の確保</p> <p>保護者メールの送信、外部機関や教育委員会への報告文書の送信、来客・保護者などのインターフォンでの対応や玄関・昇降口での直接対応、電話応対、施設貸与や業者の点検対応、生徒対応等を担ってもらったため、職員室内での業務を中断せず、執務に集中できる時間が生み出せた。</p> <p>業務上のアドバイス</p> <p>調査報告文書等の作成において、助言や支援が得られたため心理的負担の減少につながった。</p> <p>また、生徒指導等の課題への対応を協議する場では、組織マネジメント上の改善策について貴重な意見をいただいた。</p>																														